

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

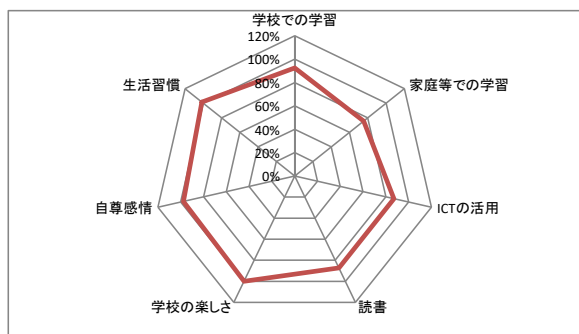
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「相手の質問の意図を捉える問題」「資料から文章を引用してまとめる記述問題」の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「分かりやすい文章構成の知識を問う問題」「文を書くときに気を付けることを問う問題」の正答率が、全国平均を下回った。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「参考例のある割り算の記述問題」「概数を使って処理をする選択問題」「分類整理されたデータから答えを選ぶ問題」の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「最小公倍数を求める問題」「割合が含まれる文章題」「示された条件でかくことができる図形を選ぶ問題」の正答率が、全国平均を下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「水溶液の凍り方について、問題に対するまとめを選ぶ問題」「鏡に反射させた日光などの光の性質に関する問題」「水滴と氷の粒は何が変化したものかを書く問題」の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「昆虫の食べ物に関する二次元の表から答えを選ぶ問題」「体積をはかり取る器具の名称(メスシリンダー)と答える問題」「気温の変化についてのグラフを見通して答えを選ぶ問題」の正答率が、全国平均を下回った。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭等での学習で、自ら計画を立てて勉強をしている児童が全国に比べて少ない。 ・昨年度までの授業で、PCやタブレットなどICT機器の使用が全国に比べて少なかった。しかし、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じている。 ・学校の授業時間以外での、1日当たりの読書の時間が全国に比べて少ない。 ・友達と協力するのは楽しいと感じている児童は全国に比べて多い。 ・生活習慣の毎日同じ時刻に寝ている児童が全国に比べて多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・国語の「文章構成の知識」「文を書くときに気を付けること」を身に付けることができるように、今年度から実施している「視写タイム」を今後も継続して取り組む。 ・算数の用語を定着させるための時間や日常の場面想起、具体物を取り入れた授業づくりを行う。ICTを活用し、図形の構成を理解する学習を行う。 ・理科の3、4年生の内容の忘却を防ぐため、ドリルアプリ等を活用する。教科書の例だけでなく、同じ性質や生き物を分類整理する仲間分けなどの学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で自ら計画を立てて勉強することができるように、ドリルアプリを家庭でも日常的に活用できる環境を整える。 ・ICT機器の使用について、本年度は高学年で教科担任制になり、それぞれの教科で積極的に活用しており、継続する。 ・読書する習慣を身に付けて読書量を増やすため、学習の中や、学校生活の中で読書時間を確保する。 ・精選しながら可能な限り、学校行事を実施したり、委員会や学習の中で友達と協力して活動する機会を設ける。 ・昨年度から全国に比べて多い、同じ時刻に寝ているなどの生活習慣の大切さを養護教諭を中心に啓発していく。
--